

日本新聞製作技術懇話会
広報委員会編集

編集人 辻 裕史
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)
電話 (03) 3503-3829
FAX (03) 3503-3828
<http://www.conpt.jp>

CONPT

CONFERENCE FOR NEWSPAPER
PRODUCTION TECHNIQUE JAPAN

VOL.35 No.3
2011.5.1
(通巻 207号)

日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
(禁転載)



「北海道新聞社の多目的取材・宣伝車ぶんぶん号」

北海道新聞社 経営企画室 河野 正敏

今年、新学習指導要領により、こども新聞の発刊や拡充が花盛り。「ぶんぶん号」と名付けた多目的取材・宣伝車で、こども向け新聞をはじめ出張新聞制作の草分けとなった北海道新聞社の取り組みと機器構成を紹介してもらった。

はじめに

2004年8月に誕生した北海道新聞社の多目的取材・宣伝車「道新ぶんぶん号」（以下ぶんぶん号）は、これまで170回以上出動しました。ぶんぶん号は①編集号外の発行②NIE支援③主催事業の宣伝やイベント新聞の発行④被災地での取材指揮や生活情報の発行—の4つの目的をもって、29人乗りのマイクロバスを改造、パソコンやデジカメ、カラー、モノクロのプリンターを積み、自家発電機を備え取材、組版、



印刷が現地です。04年10月に発生した新潟中越地震では、新潟日報社の要請を受け出動、避難所ごとの「ここだけ新聞」を発行。その後、他紙の視察や照会が相次ぎ現在「ぶんぶん型」車両は11社が導入しています。

ぶんぶん号のもう1つの特徴は専用の組版ソフトを使わず、多くのWindowsパソコンが搭載するマイクロソフト社のワードを使っている点です。データの互換性を重視し、テキストボックスやオートシェイプなどの基本操作を覚えれば、どこでもひな型を基に組み版ができます。

目次

北海道新聞社の多目的取材・宣伝車 ぶんぶん号

北海道新聞社 経営企画室	河野 正敏	2
愛媛新聞社 取締役印刷センター長・印刷局長・技術局長	児玉 良平	5
コダック(株)、クォード・テック・インク日本支店		6
(株)ニコン、東機エレクトロニクス(株)		7
清水製作(株) 営業企画部第一部長	藤原 秀一	8
CONPT日誌他		9
会員名簿		10

- 表紙写真提供：CONPT TOUR2010 入選作より 東洋インキ 上井 正人氏「新聞紙の熊」
- 表紙製版：(株)デイリースポーツプレスセンター
- 組版・印刷：(株)デイリースポーツプレスセンター

これまでの活動

ぶんぶん号のこれまでの出動は、編集号外25回、NIE支援38回、イベント新聞108回、被災地支援1回です。編集号外では休刊日に行われた市町村長、議員選挙が7回、オリンピック応援や苦駒大甲子園優勝などスポーツ関係で8回となっています。NIE支援では出前講座での新聞発行は減っています。(出前講座の要請は増えているのですが、実際の新聞作りの時間が取れない)しかし、子どもの体験イベントでNIE推進センターと協力しての新聞作りは増えています。札幌市で開かれる職業体験イベント「子どものまち ミニさっぽろ」では1回に子ども記者10人、カメラマン6人、配達員12人を募集して、取材、撮影、執筆、配達をしてもらいます。1日2回、2日間で4回行っています。こうしたイベントは十勝管内池田町など地方でも開かれるようになってきています。ぶんぶん号の宣伝も兼ねて積極的に参加するようにしています。

イベント新聞の要請が増えるのに伴いカラーの希望も多くなってきました。当初はモノクロ2台、カラー2台の体制でしたが、08年にモノクロ機1台を降ろし、高性能のカラープリンターに置き換えました。1時間A3両面600枚のトナー式プリンター2台と同1200枚のインクジェット式プリンター1台を導入し、現在はカラーA3両面2400枚(1時間当たり)、モノクロA3片面6000枚(同)となっています。



東奔西走172回の出動経験「ぶんぶん号」

寒冷地の寒さ対策

北海道の冬は寒い。パソコンやプリンターは温度調整されたオフィスで使う前提で作られています。氷点下10度以下になる北海道の冬はこれらの機器にとって大敵。トナー式のプリンターは結露を起こします。印刷の2時間以上前にエンジンをかけ、車内を暖めます。車のヒーターだけでは足りず、電気ストーブも設置しています。インクジェット式は氷点下になるとインクが分離します。冬場はインクを室内に直前まで保管して車に乗せるようにしています。使用する紙も同じです。発電機のセルモーターもバッテリーの能力低下で始動できなくなります。毛布で発電機を包んで保護しています。

発行体制

発行要員は編集作業に1-2人、組み版・印刷に2人、車両運転に1人が基本構成です。組み版は制作局編制部が担当してきましたが、同部の業務見直し、要員削減に伴い07年9月からシニアと学生スタッフが中心のチームを設けました。選挙などの編集号外や災害支援は従来通りです。現在はシニア1人、学生スタッフ6人で運用しています。

ぶんぶん号を使わない号外発行

ぶんぶん号の号外発行の特徴は先にも書きましたが、汎用性の高いワードを使って、市販のプリンターで印刷することです。10年9月に北海道新聞と北海道文化放送が主催し、道新観光が実施した2泊3日の「飛鳥Ⅱクルーズ」では船内にリースのプリンターを持ち込み、船内新聞を発行しました。また、同年9月の宗谷管内利尻町の町議会選挙では、休刊日ということもあり、これまではぶんぶん号が出動して発行した選挙号外を本社で組み、メール添付で現地に送り、販売店のプリンターで印刷して配布しました。最近の販売店はチラシなどの印刷のため高速プリンターを備

えるお店が増えています。

北海道新聞社は札幌2工場と函館、旭川、釧路、帯広に計6工場を持っています。広い北海道できめ細かな情報をいち早く読者に提供することを目指してきました。ぶんぶん号による号外発行はこの延長線上にあります。機動性を生かし、地域限定の号外発行、NIE支援、イベント新聞の発行を通じて、北海道新聞をより身近に感じてもらうのがぶんぶん号の大きな目的です。



子ども向け紙面の制作も増えている

ぶんぶん号の仕様

(1) 車両

雪道での安全走行を考えて四輪駆動の三菱ふそうローザ(29人乗り)を改造して定員6人とした。長さ6.99m、幅2.03m、総重量5090kg。定員10人以下、車両重量8t未満の条件を満たし、中型免許8トン限定(07年6月以前の普通免許)で運転できる。

(2) 自家発電機

ホンダの車載用発電機EV6010を1台搭載。

定格出力は50Hz 100V-5KVA。車内から始動、停止ができ、燃料20リットルで連続16時間稼働する。発電機が使用できない場合に備えて、外部コンセントから車内に電源供給できる。

(3) カラープリンター

リコーのIPSIO SPC811を2台、理想科学のORPHIS HC5500Aを1台搭載。リコーはA3両面を毎時600枚、理想科学は同1200枚印刷でき、3台で1時間に2400枚刷れる。

(4) モノクロ印刷機

デュプロのDP-44eを1台搭載。毎時A3片面6000枚印刷できるが、最近はカラー化が進みほとんど出番がない。

(5) 通信機器

当初はauやNTTドコモのモバイルカードを常備していたが、その後通信速度が速く料金体系も様々なタイプが発売されたため、現在は制作局が所有する使い放題タイプを必要に応じて搭載している。災害などで通常電話や携帯電話が使えない場合、かつては衛星通信装置の自動追尾アンテナの設置も検討したが、機器の進歩は早く、現在は編集局が所有するインマルサットの通信速度が速く小型化されたB-GANを随時使用する体制をとっている。



ぶんぶん号内部は機器がびっしり

新局長に就任して

防災力アップが急務

愛媛新聞社 取締役印刷センター長・
印刷局長・技術局長

児玉 良平

統一地方選の愛媛県議選開票日の4月10日夜は新局長に就任して初のイベント。集票センターで忙しそうに働く技術局員と、センターから送る愛媛CATVの開票速報画面を見ながら、何事もないことを祈りつつ、合間合間にこの原稿を書いている。

昔は、選挙は水ものといわれ、トラブルはつきものだった。過去に政治部で多くの選挙を経験したが、選管、独自集票体制、システムなどで、必ず何か起き、対応に追われた苦い記憶がある。今はシステムが進歩して、そんなにトラブルはないと現場から聞かされても、にわかに信じがたいのはそのためだ。

* * *

3月末まで東京支社長を務めていたので、松山に帰ってきてても時折、まだ体が揺れているような気がする。東日本大震災では、わが支社ビルも事務室や倉庫などがめちゃくちゃになった。社宅も一部損傷があったが、社員や家族にけがなかったのが不幸中の幸いだった。その後も連日続く余震や放射能不安、停電による交通混乱、買いだめによる物資不足、そして広告のキャンセル続出、あらゆる会合の中止など、次々対応に追われた。

そんな緊張が続く東京にただけに、頭のほうがなかなか切り替わらなかった。その上、4年ぶりの本社で、拝命した仕事はまったく未経験分野。局次長の説明を聞きながらも、チンプンカンプンの毎日。それでも少しずつ



だが、頭の中で仕事のイメージができてくるのがちょっぴりうれしい。

久しぶりに訪れた印刷センターはやはり「男の職場」だった。ごう音をあげて回る輪転機や局員らのきびきび働く姿を見て、新聞というモノづくりのすごさをあらためて感じた。また、歓送迎会で印刷部長らと酒を酌み交わしながら、局員らの思いを受け止めていかなければと気を引き締めた。

大震災の影響は、わが職場にも及んでいる。紙に続いてインキ、そして新聞の発送先名を印刷する感熱紙まで不足している。今後が心配だ。

* * *

それにしても、被災した東北の新聞社がいかに頑張って新聞を出していることか。社屋や支局、販売店の被災、ガソリン不足などにもめげず、新聞を連日休みなく届け、被災住民から感謝されている。宮城県石巻市の地域紙は壁新聞まで出したというから驚く。被災社の東京支社長から生々しい話を聞き、役立つ震災情報を大量に伝える伝統的メディアの力をひしひしと感じた。と同時に、想像を超える大規模災害に直面して、今こそ新聞力が試されているのだとも思う。

技術面からも今後、新聞社の防災力をさらにアップしていかねばなるまい。とりわけ、わが社は今、新しい印刷センター建設を進めているので、なおさらだ。東海、東南海地震と連動して発生しかねない南海地震への対策は急務だ。四国の他県紙などと結んでいる災害協定も、より実効性あるものにしていく必要がある。

11日未明、ようやく県議選の集票・速報作業がすべて終わった。ホームページ上でトラブル1件があったとの報告が届いた。決められた手順を守るという基本動作を徹底するしかミスは防げないのは、どの職場も同じだと痛感した。

高品質化と効率化と

コダックは、高品位インプット製品から、コンピュータ・トゥ・プレート(CTP)向けの多彩なレコーダーラインアップ、ワークフロー関連のハードウェアとソフトウェア、ブルーフィングシステムとメディア、フィルムや印刷用プレートなどの消耗品をはじめ、電子写真方式のデジタル印刷システム、インクジェット方式のデジタル印刷システムなど、印刷工程全体の効率化、自動化、印刷品質の向上、高付加価値化を実現する多彩なソリューションを提供しています。

新聞印刷業界におきましては、定評あるSQUAREspotサーマルテクノロジーによる高品位な刷版出力に加え、刷版工程の合理化、自動化を可能にするコンピュータ・トゥ・プレートTrendsetter NEWSシリーズと

ExThermo TN-NEWS CTPプレート、写真のような画像再現を可能にするFMスクリーニングStaccato、インターネットを介して校正の合理化、効率化を図るポータルソリューションInSiteや、印刷現場でのより効率的な色校正環境を実現するPressProofソリューションなどをご採用いただいております。

コダックでは、今後も新聞印刷のさらなる高品質化と効率化を実現するために、ワークフローシステムのNewsManager、Prosoer Sシリーズインクジェットプリンティングシステムなどお役に立つ多彩なソリューションの提供を通じて、皆様のビジネスの成長を支援してまいりたいと考えています。今後ともコダック製品をよろしくお願い申し上げます。

コダック(株)

お客様と同じ目線で

弊社は1979年以来、“Lights Out”（工場の消灯＝無人化）を最終テーマに課題解決型製品を研究、開発し、お客様に最新技術をご提案してきました。弊社の親会社が米国の大手印刷会社クォード・グラフィックス社という事もあり、印刷会社としての伝統から学んだ知識と、日常直面する難問に対しての解決策をお客様と同じ目線で開発し、ご提供する事が出来ます。

Icon（アイコン）はIntegration（統合）Control（制御）Platform（プラットフォーム）コントロール機器の統合化の略称で、様々な機能を統合し、お客様が要求する特有の条件を細部まで満たす様、必要とする機能のみを取り入れる事が出来ます。

Icon機能により、「見当・折り・色」の重要

な品質を統合管理する事が出来き、「見当」では自動見当装置マルチカムにより、業界最高速度で見当マークを検知し、損紙削減に大いに貢献しております。また、「折り」では刷り出しから自動制御を行なうカットオフコントロールにより、「紙が薄くなる傾向の中でスタバンの調整をしている間に本紙レベルまで合せてくれる」と、お客様から、お喜びの声を非常によく頂戴いたします。

絵柄から濃度測定を行い、色調をコントロールする「アキュカム」は色の安定に非常に優れており、どの機械で印刷しても、色が一定で、クライアントからの信頼があついとのお言葉を頂戴しております。

損紙削減やオペレーターの作業負担の軽減に貢献するだけでなく、品質保証においても大きく注目されています。

クォード・テック・インク日本支店

写真販売システム

弊社は、映像の分野において画像伝送、画像集配信システム、マルチコンテンツファイリングシステムの流れで約20年間に渡り新聞社のシステムに携わって参りました。その経験を活かし、新たに新聞社の保有する重要なコンテンツである「写真」の販売システムを朝日新聞社様向けに納入いたしました。

本写真販売システムの特徴は、新聞社内の写真データベースシステム(弊社製)と連動することにより写真販売システムには元画像のアーカイブを持たないシステム構成とした合理性にあります。販売先を事業者向け、イベント参加者向け、一般向けを用意すると共にユーザ別に異なるコンテンツを販売することも可能としています。写真の提供方法は電子透かし機能を採用しており、セキュリティを

確保しながらユーザの直接ダウンロードにより、迅速で合理的な写真提供を可能としました。本システムは、写真販売の運用管理システムも搭載しています。この管理システムは、写真を販売する上で重要な表示コンテンツ調整や、書誌等の編集、ユーザ管理、注文管理、請求管理(伝票発行等)メルマガ配信などを備えています。写真販売に必要とされる複雑な料金体系に対応しており、写真販売に必要とされる運用管理機能が充実しています。新聞社における貴重な財産である写真・映像を、低コストで広く社会に提供することが可能となるシステムとして各社にご検討頂いております。

ニコシステムは、画像認識、映像評価の製品群で培った最新のテクノロジーを新聞社のマルチメディアソリューションに活用して、お客様のビジネスに貢献していきます。

(株)ニコ

25年目の新たな飛躍をめざして

東機エレクトロニクスは、本年4月に25年目の新しい年を迎えました。その間、お客様のニーズを吸い上げ、そのニーズに合った製品を開発し、お客様にご満足いただくことをモットーに歩んでまいりました。即ち、「開発が命」という意識を全社員が共有しております。

最近では刷り出し損紙の削減と印刷現場の省力化を目指してT-CUTTER(カットオフコントロールシステム)を開発しました。センサーが特定マークを検知することにより、アジャスト(コンペンセーター)ローラーを適正位置に移動させ、紙面天地の裁ち切りを自動で合わせます。それと同時に片寄せターンバーも調整し、紙面左右の位置のズレも修正します。昨年9月に第1号機を河北新報印

刷様へご納入し、高い評価をいただいております。今年に入り、更に2社の新聞社様にご納入し、順調に稼働しております。

また、印刷中において常に安定したカラー紙面品質を確保するために開発されたCMAC(カラーモニター&コントロールシステム)は、当社が元々輪転機のAIC(自動インキ制御)を手がけていたこともあり、その蓄積された技術とノウハウによりフィードバックまでの対応を可能としました。更に、当社が手がけているモニターブーフ(HVP)とCMACとの融合という新たなテーマも今後追求していく所存であります。

我々は新しいことを求めて走り続けることが、会社全体を活性化するための必須の要件と信じておりますので、ご要望がございましたら、何でも遠慮なくご相談いただければ幸いです。

東機エレクトロニクス(株)

樂事万歳

三日坊主克服？

清水製作(株) 営業企画部第一部長

藤原 秀一

東北地方太平洋沖地震による被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

また早期の復旧をお祈りいたします。

* * *

私は懇話会の担当者をしているので「会報 CONPT」は毎回楽しみにしています。

今回出稿依頼を頂いた樂事万歳に関しても知っている方も多く書かれており、「昔はこんな事があったのか」「こんな趣味を持っておられるのか」など、とても興味深く拝見させて頂いておりました。

だがいざ自分に投稿依頼が届いてみると何をお話しして良いのかが直ぐに浮かんでこないのです。

まず仕事に関しては失敗談こそ数多くあれ、ここで話して皆さんに笑って頂ける様なもので無く、社内の者が読んだら怒りやら情けなさが蘇るばかりで、ここではとってもご披露出来ません。なら趣味に関しては、通勤時の読書とここ1年位クラブを握ってもないゴルフ位しか無いのです。まだ少し早いが定年になったら妻に嫌がられる典型的な亭主であるのです。

* * *

ここまで書き進めて思い出したのが近年始めたサイクリングだ。

なぜサイクリングを始めたかは申すまでも無く体の衰えであります。学校を卒業して以来スポーツと呼べるほどのことは何もしておらず、さすがに40を越えるとそのツケははっきりと形となって現れてきます。

ツケを少しずつでも清算するべく何をすれ

ば途中で挫折すること無く継続出来るかを考えた時にサイクリングが続けられるのではないかと思い、さっそく自転車の購入検討に入りました。

Tさんがサイクリングをしていることを思い出し相談したところ、クロスバイクとロードバイクがあることを知った。財務大臣の家に相談をし、手ごろな(継続出来なかった時の事も考え)クロスバイクを購入することとしました。Tさんはご丁寧に私の住まい近所の自転車屋さんまで、雑誌で見つけてくれていましたので苦勞する事無く購入することが出来ました。

* * *

前置きが長くなりましたが、私の住んでいる松戸は江戸川河川敷にサイクリングロードがあり、週末ともなると多くのジョギングやサイクリングを楽しむ愛好家が集まってまいります。

始めた当初はおしりが痛くなったり、10Kmを走るのがやっとなりで、こんなことで続けられるのだろうかと思わなくもありませんでしたが、やがて持久力も付き、乗り方も慣れてきたのかおしりも痛くなくなると、今度はどこまで行けるのか挑戦してみたくになります。とは言っても所詮はクロスバイクで限界はあるのですが。

サイクリングを始めてはや4年になります。寒い冬の時期の冬眠を除けば、週末以外にも2~3日は早朝サイクリングを続けております。今年もそろそろ良い季節となってきました。今頃の江戸川河川敷は菜の花が道の両脇を彩っております。うぐいすの鳴き声も心を和ませてくれます。

体の為に何か始めてみようかとお思いの方がおりましたらサイクリングを始めてみてはいかがでしょうか。

CONPT 日誌

- 2月17日(木) 広報委員会(出席5名)
23日(水) JANPS 検討会(出席6名)
28日(月) 臨時評議員会(出席9名)
- 4月6日(水) JANPS 検討会(出席4名)
12日(火) 評議員会(出席8名)
14日(木) クラブ委員会(出席10名)
19日(火) 企画委員会(出席8名)
21日(木) 広報委員会(出席9名)
28日(木) JANPS 検討会(出席11名)

会員消息

■担当者変更

- * (株)日立製作所 (4月1日付)
〔新〕矢島 幹也氏(産業・流通システム営業統括本部流通営業本部第一営業部部长代理)
〔旧〕阿由葉 宏之氏(産業・流通システム営業統括本部第一営業部部长代理)
- * (株)椿本チエイン(4月19日付)
〔新〕佐々野 晴規氏(マテハン事業部東部営業部物流2課参事)
〔旧〕村島 真二氏(マテハン事業部営業・技術統括東部営業部東部営業3課課長)

■社名変更並びに所在地変更

- * 日本システム技術(株)は、4月1日付で親会社の(株)インテックと合併し、(株)インテック・NSG事業部となりました。(住所は、変更ありません。)
- * パナソニックSNグラフィックシステム(株)は、親会社であるパナソニックシステムネットワーク(株)の事業部門インフラシステムビジネスユニットと親会社の連結子会社であるパナソニックSSインフラシステム(株)と事業統合し4月1日付でパナソニックSSインフラシステム(株)となりました。
〈新住所〉
(〒224-8539)横浜市都筑区佐江戸町600番地
(TEL : 045-938-1613)

- * 東洋インキ製造(株)は、4月1日付で持株会社制に移行、東洋インキSCホールディングス(株)へ商号変更し、新設分割事業会社「東洋インキ(株)」となりました。(住所は変更ありません。)

新着資料

(国内)

- * 日本新聞協会“新聞技術” No.214~215 “NSK 経営リポート” No.7~8、“新聞広告報” 743~744号、“データブック 日本の新聞2011”、“ニュースパークたより” No.46
- * 三菱重工業“graph” No.162
- * 富士フイルムグラフィックシステムズ“FG ひろば” Vol.143

(海外)

- * WAN-IFRA “IFRA Magazine” 3~5月号

CONPTホームページデザイン一新

2005年8月に開設されたCONPTのホームページが、デザインを一新しました。

昨年より進めている次期JANPSの見直し検討の中で、海外からの来場者を積極的に招請する方針が出され、CONPTやJANPSを紹介する英文ページを作ることになりました。この機会に、ページデザインも一新しようということで、次期JANPS検討メンバーと、ホームページを所管する広報委員会が協議して、新デザインを作成しました。

新ページには、新聞協会やIFRAサイトへのリンクが置かれ、CONPT紹介ページや会員一覧は英語版もあります。また、新聞社向けに、CONPTツアーの紹介や会報のPDFも用意しています。JANPS情報は、次回の開催要項が決まり次第、新聞協会と連携して、英文ページも用意する予定です。ぜひ一度ご覧いただき、ご意見をお寄せください。新聞社へのPRもお願いします。

URL = <http://www.conpt.jp/>

日本新聞製作技術懇話会 会員名簿

(4月末現在)

社名	〒番号	所在地	連絡先
株イリス	141-0021	品川区上大崎3-12-18	03-3443-4695
株インテック	105-0001	港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル3階	03-3595-6753
NECエンジニアリング(株)	270-1198	我孫子市日の出1131	04-7185-7722
岡本化学工業(株)	335-0004	蕨市中央2-6-4	048-431-4816
株加貫ローラ製作所	131-0043	墨田区立花4-8-23	03-3619-6301
株KKS	146-0092	大田区下丸子1-15-21 三葉精機ビル3階	03-5482-5481
株金陽社	141-0032	品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー6階	03-5745-6221
クオード・テック・インク日本支店	336-0034	さいたま市南区内谷3-11-26	048-839-8831
コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)	103-0023	中央区日本橋本町1-5-4	03-6362-7035
コダック(株)	101-0062	千代田区神田駿河台2-9 KDX御茶ノ水ビル	03-5577-1200
株ゴス グラフィック システムズ ジャパン	350-1328	狭山市広瀬台2-5-15	04-2954-1093
サカタインクス(株)	112-0004	文京区後楽1-4-25 日教販ビル	03-5689-6666
清水製作(株)	108-0023	港区芝浦3-17-10	03-3451-1261
西研グラフィックス(株)	144-0051	大田区西蒲田8-22-2 第二丸信ビル1階	03-5713-7717
第一工業(株)	335-0002	蕨市塚越7-2-8	048-441-3660
DICグラフィックス(株)	103-8233	中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル	03-3278-1247
田中電気(株)	101-0021	千代田区外神田1-15-13	03-3253-2816
株椿本チエイン	108-0075	港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル17階	03-6703-8402
東京インキ(株)	114-0002	北区王子1-12-4 TIC王子ビル	03-5902-7625
東機エレクトロニクス(株)	146-0092	大田区下丸子1-15-21	03-3756-3718
株東京機械製作所	108-8375	港区芝5-26-24	03-3451-8172
東芝ソリューション(株)	105-6691	港区芝浦1-1-1	03-3457-4410
東洋インキ(株)	104-8378	中央区京橋2-3-13	03-3272-0721
東洋電機(株)	101-0047	千代田区内神田1-18-12 内神田東誠ビル3階	03-5282-3306
東和電気工業(株)	104-0032	中央区八丁堀1-7-7 長井ビル6F	03-6222-5005
株ニコン	100-8331	千代田区有楽町1-12-1	03-3216-2065
ニッカ(株)	174-8642	板橋区前野町2-14-2	03-3558-7861
ニチロ工業(株)	221-0864	横浜市神奈川区菅田町2800	045-475-7229
日本アイ・ビー・エム(株)	103-0015	中央区日本橋箱崎町19-21	03-3808-7026
日本新聞インキ(株)	108-0075	港区港南1-8-27	03-3450-5811
日本電気(株)	108-8577	港区芝浦2-11-5 五十嵐ビル5階	03-5476-4656
日本ボールドウィン(株)	108-0023	港区芝浦4-13-23 MS芝浦ビル6階	03-5418-6124
パナソニックSSインフラシステム(株)	224-8539	横浜市都筑区佐江戸町600番地	045-938-1613
株日立製作所	140-8573	品川区南大井6-26-2	03-5471-2141
富士フィルムグラフィックシステムズ(株)	101-8452	千代田区神田錦町3-13 竹橋安田ビル	03-5259-2322
富士通(株)	105-7123	港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター	03-6252-2625
富士薬品工業(株)	176-0012	練馬区豊玉北3-14-10	03-3557-6201
方正(株)	140-0014	品川区大井1-24-5 大井町センタービル	03-5746-2651
ボッシュ・レックスロス(株) サーボシステム事業部	150-0002	渋谷区渋谷3-6-7 ボッシュビル3階	03-5485-7240
三菱重工印刷紙工機械(株)	144-0033	大田区東糞谷4-6-32	03-3744-2951
三菱製紙(株)	100-0005	千代田区丸の内3-4-2 新日石ビル	03-3213-3743
ミューラー・マルチニジャパン(株)	174-0042	板橋区東坂下2-5-14	03-3558-3131
明和ゴム工業(株)	146-0092	大田区下丸子2-27-20	03-3759-4621
株メディアテクノロジージャパン	102-0074	千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル	03-3237-3147